

第4回 TOKYO Data Highway サミット
議 事 録

令和5年12月18日(月)
東京都庁第一本庁舎6階ホール

午後2時05分開会

○赤木つながる東京推進担当部長

皆様、本日はご多忙のところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
ただいまから、「第4回 TOKYO Data Highway サミット」を開会いたします。

はじめに、本日の出席者をご紹介します。

慶應義塾大学 教授 村井先生でございます。

株式会社 NTT ドコモ 代表取締役副社長 前田 義晃様です。

KDDI 株式会社 代表取締役社長 CEO 高橋 誠様です。

ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO 宮川 潤一様です。

楽天モバイル株式会社 代表取締役社長 矢澤 俊介様です。

株式会社 JTOWER 代表取締役社長 田中 敦史様です。

エヌ・ティ・ティ・ブロードバンドプラットフォーム株式会社 代表取締役社長 中村 浩様です。

東日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 副社長執行役員 北村 亮太様です。

株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス 代表取締役社長 向吉 智樹様です。

続きまして、都側の出席者です。

小池東京都知事です。

宮坂東京都副知事です。

山田デジタルサービス局長です。

本日の司会は、デジタルサービス局つながる東京推進担当部長 赤木が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議の冒頭にあたりまして小池知事からご挨拶を申し上げます。知事、お願いします。

○小池知事

皆様、こんにちは。本日、ご多忙のところ「第4回 TOKYO Data Highway サミット」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

あっという間に4回になっていたんですけれども、この間には、世の中は本当に日進月歩と言いましょか、「日」も分けて「時間」と「分」ぐらいに変えなければいけないぐらい、技術的な面や、実装など、光のスピードで進んでいるのかと、このように思います。

その中で、我が国におきましても、また、東京都におきましても、この社会にいかにしてデジタル化を進めていくのか、それはハードの面とソフトの面と両方から進めていかなければならないと考えております。デジタル化というのは、言うならば、もうすぐクリスマスですけれども、Before Christ か Anno Domini か、それぐらいの変化をこの世の中にもたらしているような、それぐらいの大変革を私たちはその只中にいるのではないか、そういう認識が必要なのかと思います。

一方で、我が国そして、わが社会においての様々な課題の中で、課題先進国ということ以前から言われておりましたけれども、課題解決の先進国へと変貌を遂げていかなければならない、いつも課題ばかり分析していても仕方がないと言いましょか、もう解を出していく、それをデジタル化でどのようにして進めていくかということが問われていると、この様に思っております。

そのためには、高度で強靱な通信基盤が何より重要でございます。都は今年の8月に「つながる東京」戦略ということで、展開方針を策定をいたしたところでございます。官民連携による通信手段、この戦略的な整備の方向性、そしてロードマップのお示しをさせていただきました。今週22日でございますが、今後3年間集中的に取り組む具体的な目標、そしてその取組の中身をアクションプランとして、発表する予定といたしております。

高速大容量の5Gエリアの拡大、また、OpenRoaming対応Wi-Fiの普及促進など、お集まりの皆様方と力を合わせまして、世界最高水準の通信環境に向けました取組を加速していきたいと考えております。

また先週でございますけれども、国、そして都、区市町村、民間団体それぞれの皆様方にお集まりをいただきまして、一堂に会しまして「東京こどもDX2025」という推進会議を設けたところでございます。これは、2025年までに「プッシュ型子育てサービス」また「保活ワンストップサービス」これを都内で実現するためのものでありまして、それぞれの取組を一貫したものにし、サービスの提供をする。受け手であります都民の皆さんにプッシュ型でお知らせをしていくということでございます。こどもDXに的を絞りましたのは、親の世代というのは非常にIT、デジタルに親和性が高いということで、その皆さんからしっかりと始めていくというものでございます。

これを総称して、これから「東京DX」という形で進めて参りまして、都民の皆さんが「あ、これでデジタルで、こんなに便利になったんだ」という実感が持てるような、そういう社会を実現して参りたいと考えております。そのためにも、官民一体での環境づくりということが何よりも不可欠でございます。

どうぞ村井先生はじめ、そして通信事業者の皆様方、どうぞこの課題解決の先進国になれますように、是非ともご協力をいただきたいと思います。と存じます。

冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日もありがとうございます。

○赤木つながる東京推進担当部長

それでは早速議事に入らせていただきます。この後の進行は、座長でございます村井先生にお願いしたいと存じます。村井先生、どうぞよろしくお願いたします。

○村井座長

座長を拝命いたしました、村井でございます。よろしくお願いたします。

私からも二つ大変重要なこととお話したいと思っていたのですが、一つは、今、日進月歩どころではないスピードで変わられたと知事が仰って、本当にそのとおり

だと思います。この2023年、恐らく皆さんにとってデジタルに関する話題のキーワードの一つはAIだと思います。AIというのはデジタルデータをどのように処理するか、あるいは計算をどのように速くするか、大量にするか、勿論データの移動も重要ですので、こういうものを全てひっくるめて「インフラストラクチャー」だと思いますが、デジタル社会のインフラストラクチャーをどのように官民、それから市民の目線で考えるかということが「つながる東京」の非常に特徴的なところで、今日のような方々が集まる場は他ではなかなかないと思います。様々な方の協力を得てデジタル社会をつくる、このことが1点目です。

2点目は、それとの関連なのですけれども、デジタル田園都市関連では、新しい体制になって国もますます全ての地方でデジタル化を進めていますけれども、やはりその中でどう考えても、ある意味の先導者になる期待を受けている、また、実際に先導者であると思いますけれども、それが東京都ではないかなと思います。そうなってくると、東京都のことは「世界の東京都」ということもありますし、全国への横展開ということが必ず今使われる言葉ですけれども、そのことに関して日本の中でも先導者になって日本全体へ良い貢献をしていくことになるのではないかと思います。大変大きな期待がある重要な会議です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは東京都が今年の8月に策定した「つながる東京」展開方針に関しまして、宮坂副知事からご報告をお願いいたします。

○宮坂副知事

はい、私の方から少し説明をさせていただきます。まず、東京都としては都民の方にいつでも、誰でも、どこでも、なんでも、何があっても「つながる東京」を提供することをまず前提として考えております。そのためにも、今日お集まりの皆様の事業と密接にリンクしているわけですけれども、皆様の事業が円滑に、スムーズになるような後押しをできるだけさせていただいて、逆に阻害するものを取り除くということが都民全体を長い目で見た時の利益に資するというので、この枠組みを始めさせてもらったということになります。

これまでの経緯で言うと、たとえば都有施設に関しては基地局が建てられないケースが非常に多かったのを、建てられるようにしてほしいという声もありました。向いている所と向いていない所があるかと思いますが、一旦全部洗い出そうということで、出させていただきました。それをデータベースという形にして、どこの公園はどこの局が所管しているか等、分かりづらいということで、ワンストップ窓口を作ったりもしました。そういった動きもあり、初年度は一桁件数しかなかった基地局も、なんとか200件台に乗ってきて、今順調にちょっとずつ伸びているという状況であります。

こういったアセットに関しては、ここにお集まりの皆様の事業が円滑にいくことが、実は住民にとっても良いことだということが、理解いただけるようになりましたので少しずつこの場も広がりつつあるというところでもあります。

そしてもう一つ、誰一人取り残されないという文脈にも少しつながりますが、島しょエリアは非常に通信環境が脆弱なので、光回線の二重化等もやらせていただいています。あとは、観光客の方も非常に増えていますし、学校もコロナ以降 Wi-Fi を使った授業が非常に増えています。こういったところの Wi-Fi も、今まではとにかくつながれば良いという考えでしたが、これからは品質良くつながる環境を提供していくということで OpenRoaming の普及に取り組んでいます。最初は 5G の検討から始まった、皆さんとお話させていただきながら一体となって通信環境を良くしていこうという取組も、お陰様で、4年でかなり広がって参りました。光ファイバーについての話や、Wi-Fi の話、衛星通信を使った取組など徐々に立体的に、色々なやり方で何とかつながる環境を皆さんに提供していこうという取組が広がってきたかなと思っています。

新たな今後の取組をご紹介しますと思いますが、これは皆さんとのコミュニケーションの中から生まれた取組です。東京の色々なところでまちの再開発が行われており、古いビルを壊し、新しいビルがつくられます。新しい大きなビルをつくる際に、どのようにネットワークを設計するのかということを、建設前の早期の段階から入った方がより良いネットワーク環境を提供できるという声をいただきました。従って、通信事業者の皆様方が初期の段階からまちづくりに入っていただけるような、そんな枠組みをつくっていかうと考えています。

それから、街路灯や、区市町村の施設等についてもかなり要望をいただいていますので、こちらの方も進めていきます。5G については、皆様の事業拡大の中でかなり普及してきたと思います。併せて是非、自動運転やドローン、遠隔医療等色々なユースケースが想定されておりますが、これに関しては皆様の方が情報や、アイデア、技術を持っている会社をご存じだと思いますので、どんどん我々にご教示いただき、少しでも多く実装を後押しできればと思っております。

我々は3か年でこのように重点整備を実施していきたいと思っております。その中でも、人がたくさんいる場所については、重点的にやりたいと思っておりますので、少しでも皆さんの後押しができればと考えております。

それからもう一つ、災害時の拠点となりそうな施設については、いつ大きな災害が起きてもおかしくない状況ですので、区市町村の本庁舎、災害拠点病院、一時滞在施設、避難場所となる公園等に避難された方がご家族等に何があっても通信できる環境を準備できないかと思っております。あと、帰宅支援対象道路ですが、東京都は大体 300 万から 400 万人の方が毎日通勤で都外から来られていて、帰る際に重要な道路や幹線道路もたくさんあります。こういった道路も皆さんと一緒に、少しでも多く整備を進めることができなうかと考えております。

あとは、島しょ地域についてです。地元の住民の方からもつながると良いなという声をいただいているところですので。皆様からすると事業でやっていらっしゃるので、そこと

のバランスの問題もあると思いますが、島しょ地域も何とかつながる環境をつくっていかないかと、今後もコミュニケーションを取らせて貰えたらと思います。

もう一つ、新しい取組として、ご報告しておきたいことは、今まで全く Wi-Fi 等がつながらなかった、都内山間部のキャンプ場や、島に行く船の中で Wi-Fi を使って Instagram をアップしたり、仕事等ができるようになりました。これはいずれも衛星通信を使わせて貰っているのですが、皆さんの提案の中で生まれてきた取組でございます。

あと、OpenRoaming 対応 Wi-Fi を広げるというのも、これからやっていきたいと考えています。2025 年度までに都の保有施設の 1,300 か所については、OpenRoaming 対応 Wi-Fi を普及していこうと考えています。そして、来年の 5 月に SusHi Tech Tokyo というアジアを代表するようなスタートアップイベントをつくろうと一生懸命やっていますが、こういった海外の方がたくさん来る環境とか、あと、2025 年には世界陸上もあります。世界陸上にたくさん海外の方が来られた際に、インターネットも込みで素晴らしい体験をしていただきたいと考えております。あと併せてデフリンピックもございしますので、このように海外から人がたくさん来る時に素晴らしい環境を、是非提供したいと思っております。このようなことを 3 年の間にはと、今考えておりますので、今日は色々またご提案いただければ、我々なりに咀嚼をして進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○村井座長

ありがとうございます。それでは各社からの取組についてお伺いしていこうと思っております。まず、ドコモの前田さん、お願いいたします。

○前田様

はい、よろしく願いいたします。まず当社としましては、多くの都民の皆様にもどこでも快適にご利用いただけるよう、日々、通信環境の整備を行っております。多様化するユースケースに対し、ネットワークスライシングなどの新技術を活用する点や、増大するトラフィックに対して高周波数帯 5G を活用する点など、「つながる東京」における 5G 整備の基本的な考え方は、当社が考える 5G ネットワークの目指す姿と共通する点が多く、方向性は概ね一致している認識でございます。特に近年では、再開発が活発であり、新たなシンボリックなエリアが誕生することで、トラフィックが増加したり、新たなサービス需要も生まれております。そのような環境の変化に合わせて快適な通信環境を提供できるよう日々取り組んでおりますが、行政や民間のアセットを活用させていただくことにより、まちづくりの計画段階から情報提供等の御支援をいただくことで、魅力あるまちづくりに貢献できればと考えております。

そして、皆様の暮らしを豊かにする 5G サービスの実現に向けて、積極的に取り組んでおります。町立八丈病院様においては、病院内にドコモの 5G エリアを構築することで都立広尾病院様とつないで、高度な遠隔医療ができる環境整備を行いました。実証実

験から始め、今年度からは実務運営ができており、5Gを活用して島の医療をサポートすることができております。また、今年10月には東京スカイツリーでイベントを開催し、高周波数帯5Gで高品質なARコンテンツを提供し、多くのお客様にXRの世界を楽しんでいただきました。このような、高速大容量通信ならではのXR技術を活用したコンテンツは観光需要の創出や、教育分野において生かせる可能性があると思います。これからも5Gを使ったサービスやソリューションの創出と5G展開を両輪で加速して参ります。

最後に、通信困難地域の解消についてですが、4G、5Gに加えて衛星通信を活用し、どこでもつながる環境を構築していきたいと考えております。衛星通信を使ったサービスとして、「ワイドスターⅢ」や、「Starlink business」の提供を進めております。さらに先日、Amazonと「Project Kuiper」について戦略的協業に合意したので、その活用方法についてはこれから検討して参ります。様々な衛星通信サービスをご用意し、「つながる東京」に貢献していければと考えております。発表は以上です。

○村井座長

ありがとうございました。それではKDDIの高橋さん、よろしく申し上げます。

○高橋様

はい、よろしくお願いいたします。KDDIの高橋です。これは先ほど宮坂さんからお話があったページそのままですけれども、この中における一番と二番、具体的な施策としての「5Gの更なる展開」、それから「通信困難地域の解消」について、簡単にご説明をさせていただきます。

これが、5Gの更なる展開ということで、お陰様で都のアセットを活用させていただきました。だいぶエリアも広がって参っております。お客様の生活動線に沿ったということが非常に重要だと思っております。このエリア拡大を目指しまして、都のアセットを活用した基地局が2024年3月までに、54局サービスを開始することができます。これについては益々広げていければと思っております。都立青山高校を始め、このような場所でしっかりと5Gを使えるようにしていただきました。

「新たな協調の取組への参画」ということで、先ほど宮坂さん、前田さんからもお話があったように計画段階から我々を参画させていただくと非常に展開しやすい。これを後からつくっていかうとすると本当に大変になりますので、前広な先読みをした展開をしていただくと非常にありがたいです。更なるアセットの開放ということで西新宿エリア、これを象徴的なエリアにしていかうというお話もお伺いしておりますので、これについて、積極的に参画していきたいと思っております。東京都様が手掛ける新たなスキーム、あるいはアセットを活用して、5Gエリアの拡大に貢献して参ります。

通信困難地域の解消ということで、すべての地域で「つながる東京」と、非常に重要と思っております。防災の観点、山間部、海上、島しょ部というところで、今Starlinkを活用しまして、このようなところで実現できております。防災におい

ては衛星通信を活用した自治体防災 DX の実現ということで、万が一の場合に衛星通信を活用することによって対応することができるようになりますし、あとは山間部にも力を入れようと思っておりますし、奥多摩エリアでの通信環境の構築ということで、Wi-Fi 活用は既にできておりますし、このように百名山を中心として東京都にある山の中でもしっかりと使えるようにしていきたいと思っておりますし、また、海上はさるびあ丸、橘丸ですでに活用ができておりますし、島しょ部においても Wi-Fi が利用できるようにいま展開しております。今後も Starlink の衛星等を活用して、東京都様の通信困難地域対策、この災害対策に貢献していきたいと思っております。

我々のコンセプトにしておりますが、今まで5Gを日常生活するところで活用できるようにしていこうということで、東京都様の色々なエリアで活用出来るようにして参りました。今こだわっているのは、非日常をつないでいこう、ということで、日常以外で山に登ったり、島しょ部に行ったり、船に乗ったり、こういうエリアでも非日常をつないでいこうというのを今コンセプトにしておりますし、また、来年になりましたら、制度的に課題はありますが、衛星とスマートフォンが直接つながる時代になりますので、空が見えればどこでもつながるような時代になって参りますので、「つながる東京」の実現を全力でご支援したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

○村井座長

ありがとうございました。それではソフトバンクの宮川さん、お願いいたします。

○宮川様

はい、宮川でございます。よろしく願いいたします。先ほどからずっとお話があったようにこれから社会基盤の礎としての通信の役割はこれからどんどん大きくなっていくと思っております。その中でも、コロナ禍からトラヒックがガラッと変わりだしました。コロナ禍ではトラヒックは一旦落ち着いていましたが、現在を見ても、山手線だとか、鉄道沿線を中心に非常にトラヒックが増えて参りました。人中心の設計をしなくてはならない時代だと思えます。

ここから、お願い事も含めてご提案させていただきたいと思っております。今、都のアセットの活用をさせていただきまして、本当にありがたいお話ではありましたが、開放いただいた15,000局の中で当社が使えたのは45局でございます。実は、都内に私どもが持っている基地局数が既に42,500局もあるわけです。ですからその中でどうしてもトラヒック的に必要なものということで大型施設はお借りしたのですが、更なるお願い事としては、鉄道沿線だとか、繁華街周辺、都立公園の広場も管理事務所を中心に開放いただいておりますが、端の方まで考えると広場全体を議論させていただけるとありがたいとか、色々な要望があります。あとは手続的に四半期ごとというのは非常にスピード感が遅いので、これを少し何とか考えていただければと思えました。

通信困難地域の話なのですが、先ほどから衛星通信の活用は素晴らしいことですが、これから5Gの展開、6Gの展開を考えると、やはりどこかでファイバーの入線も検討しなくてはならないと考えておりますので、東京都にぜひお願いしたいのは光ファイバーとか地方の方に行くと電源も取れない場所もあります。今回ご要望いただいている場所も、理解はしているのですけれども、電源すら取れないという場所もありますので、これを是非東京都のアセットか何かにされて持っていただければ、我々としてはシェアリング事業者様の通信基地局は全員平等に使えるようなものを建てて、我々が通信の無線を持ち込むような、このような三者の組合せで対応していくことがよろしいのではないかと考えております。

こちらが最後ですが、とにかくAIがこれからどんどん出てくると、トラフィックの量は莫大なものになりますから、やはり光ファイバーの整備を根本からやるということをご提案させていただきます。以上でございます。

○村井座長

ありがとうございました。それでは楽天モバイルの矢澤さん、よろしく申し上げます。

○矢澤様

はい、楽天モバイル発表させていただきます。まず楽天モバイルは、参入（本格サービス開始）が2020年ということで、先ほどの3社様と比べると経験が3年ちょっとでございますが、基地局もゼロから立ち上げ、宮坂副知事にも大変ご協力いただきまして、現在は60,000局を突破しておりまして、東京都におきましても（4G人口カバー率）99.98%のカバー率までできております。

実際に我々は後発だからということもありますけれども、プラチナバンドというつながりやすい周波数を総務省から認可いただきまして、この展開を今一生懸命進めているところでございます。東京都におきましてもこのプラチナバンドを早期に実装していくということがつながりやすさを改善していくためには非常に重要になってきますので、こちらに注力している点と、我々は仮想化技術と呼んでおりますが、ソフトウェア化することによって、よりスピーディに展開することができますので、こちらを東京都にもしっかりと展開していきたいと思っております。

今までいただいていた1.7GHz帯域だけですと、スピードはそこそこ出るのですけれども、つながりやすさという点ではやはりプラチナバンドの優位性が高いというところがございますので、1.7GHz帯とプラチナバンドを特に人口密集地帯については両方併用してやっていくことが大事になりますので、来年度の早期に実装していきたいと思っております。実際に宮坂副知事にも、我々が新参者だったので、ちょうど基地局をたくさん建てる時にご協力をいただきまして、たくさんのアセットに楽天モバイルは基地局を置かせていただいております。今までですと、申請に時間がかかっているものが多か

ったですけれども、その辺の事情も汲んでいただきまして、今たくさん使わせていただいているという状況でございます。

5Gでございます。5Gは我々が入ったタイミングでは皆様もちょうどスタートされているタイミングでしたので、現在、楽天モバイルは都内で4,500局を超える5Gを運用してきております。マップをご覧くださいますと、ミリ波というより周波数の高いスピードの高い基地局と、Sub-6と呼ばれる3.7GHzの周波数帯域と両方合わせてやっていっておりますが、やはり日々トラフィックを見ているとどんどん5G化が進んできておりますし、お客様が使うスマートフォンも5G対応がどんどん増えていっておりますので、あと1～2年で5G中心のトラフィックになっていくと思いますので、ここをしっかりと整備をしていきたいと思っております。

つながりやすさというところでは、やはり島しょ部は非常に重要だと思っております。特に離島の皆様は、楽天という元々ネット通販がメインビジネスでございましたので、なかなか普段お買い物に行けないお客様が多いということで、離島のお客様は楽天のネット通販をたくさん使っていただいているのですけれども、そういうお客様は楽天モバイルを持ちたいというご希望をたくさんいただいておりますので、頑張って50の基地局を運用しております。どんどん拡大していきたいと思っております。

あと、皆さん仰っていただいておりますが、衛星を活用しております。楽天はASTというアメリカの会社の創業者に次ぐ株主となっておりますので、この特徴としては衛星とお客様が持っているスマートフォンを直接通話ができることとなっておりますので、このような島しょ部における環境や、災害時においても活用できると思っておりますので、このようなものを使いながら通信困難地域の解消を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○村井座長

ありがとうございます。JTOWERの田中様、お願いいたします。

○田中様

JTOWERの田中敦史と申します。我々はインフラシェアリング事業者でございますので、各キャリア様のネットワークをシェアリングするという観点で、これまでの取組についてご説明いたしたいと思っております。

5Gのシェアリングというところでは、2020年に部分対策ではありますが、都庁第一本庁舎、第二本庁舎をSub-6の方で対策しております。また、あとは都議会ですね。さらには、まさに先週なんですけれども、ここの6階の上、7階も5G化しようということで、今サービス開始に向けて準備を進めております。

長期的には各キャリア様と、東京都の皆様とですね、都庁全体をシェアリングしようということで、今プロジェクトの方も進めさせていただいております。

先ほど宮坂副知事からもありましたけれども、島しょ部では、我々最近神津島村で共用鉄塔を建てまして、実際複数のキャリア様にご利用いただく、こちらの方も今まさに推進させていただいております。

都営大江戸線都庁前駅前で5GのSub6帯域を用いたものですが、地下鉄のホームであったり、改札、こういったところに共用アンテナを設置して複数のキャリアでご利用いただいている。まだまだ対策されている地下鉄駅は都庁前駅だけですので、駅はトラヒックも多いと思いますので、ニーズがあれば我々の方でも貢献していきたいと考えております。

また、最近話題の麻布台ヒルズ、副知事からも御説明ありましたけれども、広さにして東京ドーム1.4個分の敷地、あとはご存じのとおり非常に背の高いビルです。下の方には商業施設もございまして、実は我々も本当に更地の段階、設計段階から施主である森ビル様と一緒に屋内対策の検討を進めてきた案件になります。案件というよりも、本当にまちづくりですね。先日麻布台ヒルズも開業を迎えて、開業日にはここにいらっしゃる4キャリア全ての電波環境がしっかりと整うということをもって開業を迎えることが出来ました。

やはり設計段階から入ってですね、電気の確保、場所の確保、こういったものが非常に重要になって参りますので、今後の東京都の開発案件についても、我々のこれまでの知見を活かすことはできるのではないかと、そういった分野でしっかりと貢献して参りたいとこのように考えております。

トラヒックは今後もどんどん増加すると言われております。あとは、用途面でも我々商業施設の屋内対策をやっているのですが、最近はスマートフォンがつながるだけでなく、決済端末、こちらやはりコネクティビティが重要だということで、屋内対策のニーズは以前よりも増しているのではないかとこのように考えております。あとは先ほどからお話もあります不感地帯、島しょ部等々のカバレッジをしっかりと。こちら重要なテーマというふうに認識しております。これらの課題、テーマに関して、東京都の皆様、各携帯電話事業者の皆様と協調しながら、我々はシェアリング事業者として貢献して参りたいと思います。

以上になります。

○村井座長

ありがとうございます。NTTBPの中村様、お願いいたします。

○中村様

NTTBPの中村でございます。

BPと申し上げるのは、20年前からいわゆるWi-Fiという名称が一般的ではなかった時代から、Wi-Fiサービスを日本におけるフロントランナーとして作り始めていた会社でございまして、今年で20年目になります。当初は携帯の補完的サービスという形で提供しておったのですが、昨今はいわゆるインバウンド対応を中心として、外国

の方にも広く使っていただけるような形、それから、エリアオーナーと私たち呼んでいるんですけども、企業向けの、ビジネスとしてお使いいただくような形という Wi-Fi を提供しております。

東京都の方で進められている OpenRoaming 対応ということで、我々は東京都の施設約 1,300 台ほどのアクセスポイントを提供させていただいておりますが、その OpenRoaming 対応ということで、順次対応装置に切替させていただいております。

また、新たにこれから付けていただける施設についても、OpenRoaming 対応できるように整備を進めていきたいというふうに思っております。これについては、都の施設、公園であるとか、駅であるとかだけではなく、我々東京都様以外でも約 20,000 拠点ほどのアクセスポイントを提供しておりますので、こういったところも順次エリアオーナー様と拡大していきたいというふうに考えております。

「つながる」ための選択肢の多様化ということで、先ほど田中さんからありましたけれども、Wi-Fi は単なる携帯の補完というだけではなく、決済端末でありますとか、色々な用途が増えてきております。エリアオーナーからの要望も、先ほど知事からありましたように、日進月歩で非常に多種多様な要望をいただいております。これらにスピード感持って対応していくために、技術にあまり固執することなく、その時期に合った最適なものを常に提供し続けたいというふうに思っております。このためにはですね、我々の技術の習得とともに、品質確保といったところが非常に重要となってきますので、この点はしっかりとこれからも続けていきたいと思っております。

さらに、データ分析というところで、単なる接続サービスではなくて、データ活用というものが昨今非常に重要になってきておりますので、こういったところも取組んでいきたいというふうに思っております。

BP という形で、Best Partner ということで、エリアオーナー様、東京都様始め、今後とも最適なサービスを提供していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

○村井座長

ありがとうございます。NTT 東日本 北村様、お願いたします。

○北村様

NTT 東日本の北村でございます。本日はこのような機会をいただき誠にありがとうございます。早速ですが、「つながる東京」実現に向けた当社の取組についてお話をさせていただきます。

一つ目は、Wi-Fi サービスが OpenRoaming でつながるとい世界に貢献をしていきたいということでございます。「つながる東京」の第一層である光回線につきましては、島しょ地域を含めましてエリアを拡大してきたところでございます。また、東京都様からの委託等に基づきまして、TOKYO FREE Wi-Fi、スマートポール、ギガらく Wi-Fi など整備してきたところでございます。今後は OpenRoaming に対応するこ

とによりまして、「つながる東京」の更なる推進に貢献をして参りたいというところでございます。

続いて、平時だけではなく災害時においてもつながる、という世界にも貢献をして参りたいというところでございます。私どもは信頼性の高いネットワークを提供するとともに、東京都様、あるいは区市町村様との連携を通じまして、災害時であっても通信サービスを提供できるように取り組んできているところでございます。東京都様を始めといたしまして、各種防災訓練を今年度も125回ほど参加をさせていただきましたが、その中で災害伝言ダイヤル171の使用方法ですとか、公衆電話の利用体験などを実施してきているところでございます。今後も、公衆電話ボックスの上にWi-Fiを設置いたしまして、併せて停電時の電源バックアップといった機能を具備することによりまして、何があっても「つながる東京」の実現に協力をしていきたいと考えているところでございます。

最後に、スマート東京を支える「つながる」といったものにも貢献をして参りたいというところでございます。都事業のDXに向けまして、東京都農林水産振興財団様や東京都立大学様とローカル5Gを活用した事業で連携をしているところでございます。東京都農林水産振興財団様とローカル5Gを用いまして、遠隔での指導といった新しい農業技術の開発なども実施をしてきているところでございますし、東京都立大学様の南大沢キャンパス全域をカバーする形でローカル5Gを設置いたしまして、都立大学様の方でこれを活用してローカル5Gの活用事例といった最先端研究をお手伝いさせていただいたというところでございます。今後とも、高品質でリーズナブルなローカル5Gサービスであるギガらく5Gや、高性能なWi-Fi、あるいは(IEEE802.)11ahなどの提供を通じまして、産業分野等におけるスマート東京にも貢献をして参りたいと考えているところでございます。以上でございます。

○村井座長

ありがとうございます。それではワイヤ・アンド・ワイヤレス 向吉様、お願いいたします。

○向吉様

ワイヤ・アンド・ワイヤレス向吉から発表させていただきます。人と人、人と企業をつなぐWi-Fiソリューションで、ということで書かせていただいているのですが、弊社ではコンシューマー向けのセキュリティサービスのギガぞうWi-Fiをはじめ、安心安全で利用できる通信サービスの提供、また至近では衛星を活用して山小屋にWi-Fiを設置したり、イベントのキャッシュレス決済のWi-Fi、このようなものを提供しているKDDIグループのWi-Fi事業者でございます。

OpenRoaming対応のモチベーションということで書かせていただいたのですが、総務省の利用者の調査結果なのですけれども、利用される方はセキュリティに不安があるというのが圧倒的でございます。OpenRoamingというのはどうしても利便性の部分

が表に出がちなのですけれども、今回は技術的にセキュアな環境もセットで提供できるというのがミソでございまして、我々としましてはWi-Fiのインフラを構築していく上で非常に有効な手段というふうに捉えて積極的に推進しているところでございます。

「つながる東京」の展開方針との連携ということで、今までWi-Fiはどちらかというところ、行政で言えば行政の単位毎に構築をして、それぞれID、パスワードを入れなくてはならないというところが、このOpenRoamingの活用によって、まさに「つながる東京」ということで、一つのエリアになるものかなというふうに思っております。我々も推進するコンセプトと合致するところですので、お役に立てるべく、しっかりと御支援をして参りたいというふうに弊社では考えています。以上です。

○村井座長

ありがとうございます。

それでは、知事は公務がおありになるので、ここでコメントをいただければと思います。よろしく申し上げます。

○小池知事

皆さま方からプレゼンテーションで、この間TOKYO Data Highwayがいかに進み、また「つながる東京」という目標に向かってそれぞれご協力いただいていることを確認させていただきました。

申請が紙から電子化、ということは早速進めさせていただきたいと思っております。

再開発が各地で進んでおりますと、5Gのメリットの部分が逆に再開発で新しいビルが建つことによって繋がりにくくなる、ということを考えますと、改めてTOKYO Data Highwayという意味がいかに重要かということを教えてくれます。それだけに、冒頭に副知事の方からご説明させていただいたように、再開発に伴う様々な通信環境の確保ということ、前もって念頭に置きながら進めていく必要があるということ、改めて感じたところでございます。

これからも「つながる東京」ということで、都民への利便性の確保という点で、引き続きご協力いただきたいと思いますし、また、イノベーションは本当に日進月歩の次は何というのかなと、「分進時歩」、それくらい本当に世の中の変化のスピードは速いわけでございます。

それと、やはり世界が繋がっている状況の中で、各国から日本にいらした方が、日本がなかなか繋がらないね、と言われるのは、それだけで国の価値や都市の価値が落ちてしまいますので、その意味でも、しっかりと皆様方と連携しながら、ハードの面、そしてまた皆様方が色々とソフト面での開発もされておられると思っておりますので、それらも含めまして、今後ともTOKYO Data Highwayへの御協力、よろしくお願いを申し上げたいと思っております。

村井先生のリーダーシップも、どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げまして、私から御礼と、引き続きの御協力のお願いとさせていただきます。誠にありがとうございます。

○村井座長

ありがとうございました。

それでは、あと 10 分間ありますので、少しフォローアップの議論をさせていただきたいと思うんですが、まずは 5G の展開というところでお話いただき、次が OpenRoaming の話になったかと思うので、その二つに分けていきたいと思うんですけども、5G がやはりミリ波の展開と、その先へ行くということ、これが全国への展開というところで皆様ミッションは持たれているのですけれども、東京都で上手くいって、それが横展開をしながら全国に良い影響を与えてく、という役割なのかなと思います。その中で、東京都で皆様取組まれていて、地方へ展開していただくか、そういうことに貢献していく良い経験や、ここを解決すれば横展開が上手くいく、そういうようなところがありましたら御意見を伺いたいのですけれども。

では宮川様。

○宮川様

東京のトラヒックというのは、世界で一番大変なトラヒックなんです。今、色々なベンダーさんがありますけれども、東京のトラヒックさえ捌ければ、世界のどこの都市でも捌けるというくらいなんです。ですから、今 R&D センターも世界ベンダーみんな東京にあります。そこで東京のトラヒックを勉強して、それで処理ができるようになると世界展開するという。本当は逆に、日本の企業がそういった良い経験値を積める場所があるので、大変なものを逆手に取って攻めに行く、というのが面白いのではないかと僕は思いますけれどもね。

○村井座長

皆さん、地方自治体の方とも話されているかと思います。東京都の方と話すところで、地方自治体の方と話すところだという、言いにくいことがあるのかもしれないですが、おそらく東京都の方の方が楽な部分も多いのだと思います。つまりこういうところを他の地方自治体の方にも展開してくれるといいなと。言わば役所としての在り方みたいなところは、どういうふうにお考えですか。色々な御経験を各地でお持ちだと思っただけでも。

では前田様。

○前田様

やはり東京が一番再開発等も含めて進んでいるということだと思いますので、そこでどういうコミュニケーションが取られているのか、どういうふうに進めていくのか、というところを他の地方自治体も見てらっしゃるところはあるんじゃないかなと思います。

我々も他の地方自治体さんと、例えばアリーナをつくるだとか、色々な取組をやらせていただいておりますけれども、そういう時に色々なコミュニケーション、調整をしっかりと発生させるという意味では、他もそうやって、やっていますとか、東京都でこういうふうには上手くいっているというような事例があります、というようなことがあれば、より進めやすいのではないかなというふうに思います。

○村井座長

役所の方から見て宮坂さん、こういう東京都が上手くいっているという話はあると仰いましたけれども、それが他の地方や他の道府県に上手く展開していくというのは、スムーズにいくとお考えですかね。

○宮坂副知事

東京都も皆さんとコミュニケーションが上手くいっているかはまだまだ課題があると思いつながっているのですが、専門のチームをワンストップでつくることで、通信キャリアの皆さんと向き合い、一つのワンボイスで話を承れるような環境はつくって参りました。

これはひょっとすると他の自治体の方にも、局ごと、部ごとに通信キャリアの皆さんとお話をするのではなくて、一つの場所をつくるというのはおすすめできるかもしれません。

○村井座長

上手くいっているところは是非透明にして、他の都道府県の行政が学べるようにしていただくと良いのかなと。

○宮坂副知事

全国政策バンクという、各自治体のベストケースを共有する場があるのですが、今回色々やらせてもらっている取組もタイミングを見て、出させてもらおうと良いかもしれません。そういった中から、他の都道府県の方より「東京都のこの取組について教えて」という声をいただき、東京都も積極的に色々なものを開示していければよいと思います。例えば、自治体ごとに色々な書式を使うのは、皆さんも大変だと思いますので、東京都とのやり取りの書式をそのまま他自治体でも使えるようにする等、そこは自治体ごとに工夫をしてはどうかなと思います。このように、東京都と皆さんの間で一つの良いケースができたなら、それを全国に横展開するということを、役割として一つやってみたいなと思います。

○村井座長

先ほど出たことにもつながってとても良いですね。

それでは、OpenRoaming 対応 Wi-Fi の展開、これを都として展開するというのは大変珍しいことだと思うんですけれども、色々なサブコミティなどでも議論が出ているのは、やはりオープンなフリーWi-Fi というのは少し心配だと、それとどのように区別

するのからだとか、そのためにブランディングがいるのではないかと、そういうご意見が委員の方たちから出ております。

つまり、Wi-Fiを安全にOpenRoamingで使えるという環境が東京都でできる、このことは素晴らしいと思うのですけれども、このことの認知を進めるにはどうしたらいいかというところで、色々な御経験から御意見ございましたら伺いたいと思います。

○中村様

村井先生からありましたように、「良いもの」ということは分かってきていただいている方は増えているように思います。良いんだけど、お金がいくら位かかるのかとか、あるいは少し詳しい方なんかですとそこから得られるデータみたいなものはどう活用できるのかとか、先生が仰るように色々なことを心配されている方もいらっしゃることも事実なんですけれども、かなり色々なことに理解は進んでいるような気がするんです。ただ、実際に使おうとしたときの不安というところがまだ残っているような気がします。

○村井座長

上手く広がるということに関して、何か障害になるだろうということ、あるいは何か解決しなくてはならないことについて何かありますか。

○向吉様

障害になるという意味合いにおいて、潜在的な安全に対する懸念というのはあるんですけど、私どもの方も色々なイベントですとか、自治体のセミナーとか、積極的にお時間をいただきまして、皆様にOpenRoamingの仕組みと、なぜ安全なのかということも積極的に説明しているところでございます。

先日の「スマートシティフェスタ」でもブースをいただきまして、説明させていただいたところですので、言い方は変ですけども、こういう地道な活動で実際かなり地方自治体の皆様も認知度、問い合わせが増えてきていますので、これをきっちりやっていくことかなというふうに考えています。

○北村様

まずこれを使ってビジネスを展開するような方々からすると、先ほどあったようなデータの共有の仕組みには関心があるでしょうし、一般のお客さんとして使う側になってきますと、利用手順ですとか、プリミティブな部分を含めて使い方が分からないということが出てくると思いますので、利用者サポートみたいなことができる仕組みは必要なのかなと思います。

あとは、不正利用等トラブルがあった時に、一元的な対応窓口みたいなものがあると安心して使えるということになりますので、議論をしながら上手くつくっていかないとかなと思います。

○村井座長

ありがとうございます。

宮坂さん、やはりこれは今までのフリーWi-Fiと比べた際に理解をしてもらうというのが難しいですよ。だから、色々な方が今努力をされていると思うけれども、一人残らずつながる人たちがきちんと分かる、このためのプロモーション、ブランディングもそうかもしれないし、説明ができる、OpenRoamingとは何かということが分かる、こういったことは全体として進めないといけないかなと思うのです。

また、データを取られたらそれを上手く利用して色々なことができるんだよというのはそのとおりのだけけれども、通信事業者だけの問題ではないが、東京都が主体となっている以上、東京都としてはデータの利用に関して各社とどういう責任を持っていますよ、ということも、不安を解消するためには重要だというメッセージに私には聞こえました。

これは大丈夫ですかね。

○宮坂副知事

データのところについては行政としても興味がある点なのですが、利用者の方に不安がられるような行政のデータ利用というのは良くないと思いますので、データの利用についてはコンサバ気味に進めたいと思います。ただ、やはり行政は通信キャリアから得られるデータを上手く活用できていなかったというのはあるので、興味のある点ではあります。

あとは、大規模なイベント等はフックにできれば良いなどは思っています、世界陸上ですとかデフリンピックといった世界的なイベントがありますので、そういった時には是非積極的にアピールをしたいと思っています。実は、先日の東京マラソンの時に海外から来られた人がいて、OpenRoamingを実験的にやらせてもらったのですが、結構使ってらっしゃったんですね。ああいったものを見ると、大規模イベントは非常にPRもしやすくなりますので、そういったところから利用が増えればなと思います。

○村井座長

それと、宮坂さんも、皆さんも仰ったけれど、我々のインフラストラクチャーは何かが起こった時に人の命を救うためのライフラインになるのですよね。だから、そのための学習もしなくてはいけないし、戦略も立てなくてはいけない。そういったことには都の方で取り組んでいただくと。それで、そういうことのために皆さんが力を合わせられるということはとても大事なかなと思いますので、災害が起きた時に、より安全なことを東京都が行うために、インフラストラクチャーやデータも利用されているというメッセージはとても重要だと思いました。

時間は越えてしまったのですけれども、これを言わずに帰る訳にはいかないという御意見ございましたらどうぞ。

○宮川様

東京都が「つながる東京」をしたい、行政さんの思いはよく理解しますし、そうあるべきだと思っています。

一方で、我々事業者も事業者なりの理屈がありまして、これ以上携帯電話の値下げも続かないとは思いますが、そうは言っても色々な備えをしなくてはなりませんので、不採算エリアへの投資というのは我々もおっかなびっくりでやっている訳ですね。

行政がやるべきもの、民間がやるべきもの、一緒にやるべきもの、これを一回整理しないと、恐らくこの議論をしていても来年は同じくらいの基地局数しか無いと思いますし、前に進んでいないと思うんですね。

ですから是非、この会をベースに、お互いに不採算な場所だと思うんですけども、それを本当にどうするのか、ということを実際に話し合う場所をつくってですね、予算も組むなら組むということで、それから我々も持ち出しはこれだけやってくれという話でも結構ですから、一回整理していただければというふうに思っております。

○村井座長

大変重要ですね。その議論がまさに国全体の DX、あるいはインフラの発展というところに効いてくると思いますので、是非そういった総合的に見た上でのパブリックでやる責任と、プライベートでやる責任というのはこれを機会に進められればと思います。

それでは最後に宮坂さん、何か一言。

○宮坂副知事

今年も本当にありがとうございました。これまで4年に渡って着実に進んで来ました。少しずつ課題も高度化し難易度が上がってきているというのも、逆に言うと進歩のかなと思います。

最後に宮川社長からお話が出たとおり、不採算地域をどうしていくのかというのは中々一つだけのプレイヤーでは上手くいかないと思いますので、この枠組を上手く使いながら、小さなエリアでもいいので新しい枠組が何かできればなと思います。

日本全体の人のいない地域はたくさんあると思いますけれども、東京で上手く行かなければ他でもっと大変だと思いますので、何とかここで一つ小さな種ができるような一年間に是非していきたいと思います。

これからも一つよろしく願いいたします。

○村井座長

それでは少し時間を越えましたけれども、本日の会議以上とさせていただきたいと思えます。本当にどうもありがとうございました。

○赤木つながる東京推進担当部長

村井座長、どうもありがとうございました。

そして通信事業者の皆様、本日は長時間にわたり、ご出席をいただきましてありがとうございました。

これを持ちまして、「第4回 TOKYO Data Highway サミット」は終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後 3 時 05 分閉会